

<効果的>

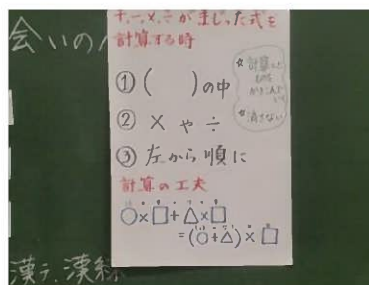
- 二人ペアで、辞書を使って熟語を五つずつ調べ、ホワイトボードに書き、交流する。
- 課題に対しての考えをノートに書かせる。その間、机間巡視で内容を把握。交流の場で「同じ考えの人が他にもいたよ、発表して」「〇〇さんの考えを聞かせて」「〇〇さんも同じような考えじゃなかった、みんなに教えて」と声をかけ、発言を促す。
- 話し合いが活発になる学習形態（コの字方） ○並行読書のコーナー（行事にあわせて）話し合いがしやすい、顔が見える。



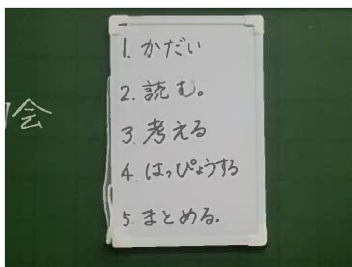
- 「和間っ子きらり」のコーナー、学級でのキラリ見つけ 視覚化で子どもも意識する



- 既習事項の掲示と繰り返し、授業での活用により定着を図る



- 本時の授業の流れを示す。何をすることが見通しが持てる。安心して授業を受ける、思考が発展する



- ICT 機器の活用、視覚化、能率的（書画カメラ） 児童のノートや考えを共有化することにも活用を



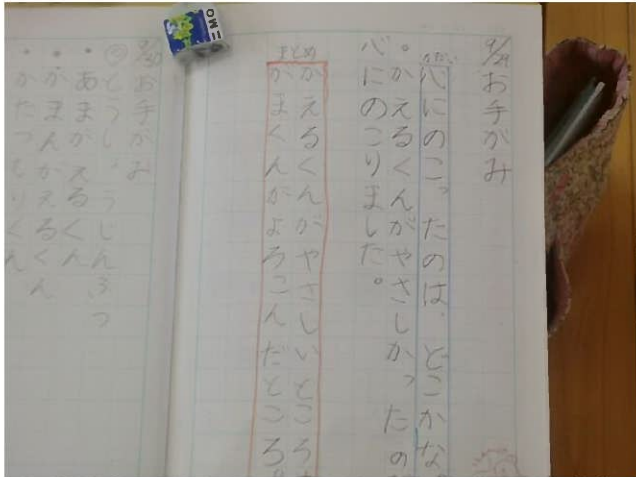
<改善点>

- ・発問が矢継ぎ早になると、ついていけない子どもがでる。
- ・主要発問と補助発問の区別をする。
- ・引き受けられる課題になっているか

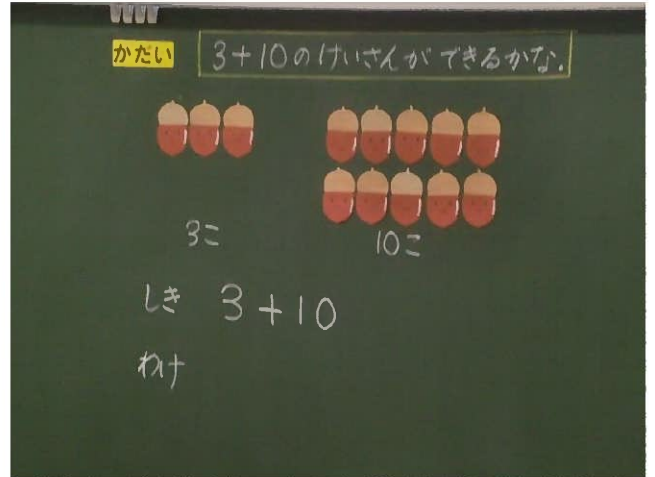
実践交流カード ～「これちょっとやってみよう」～ NO.2 和間小 H2810/21

<効果的>

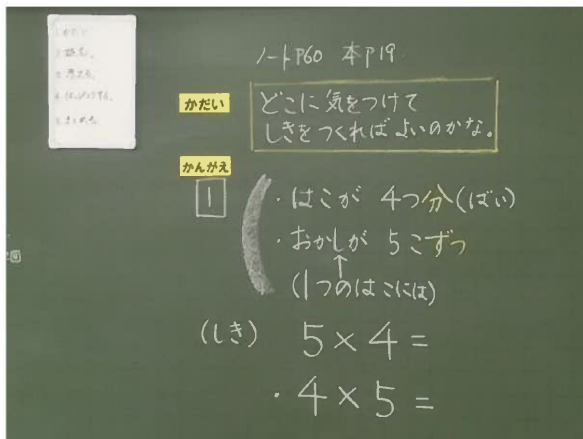
○ノート 課題（青） 考え まとめ（赤）



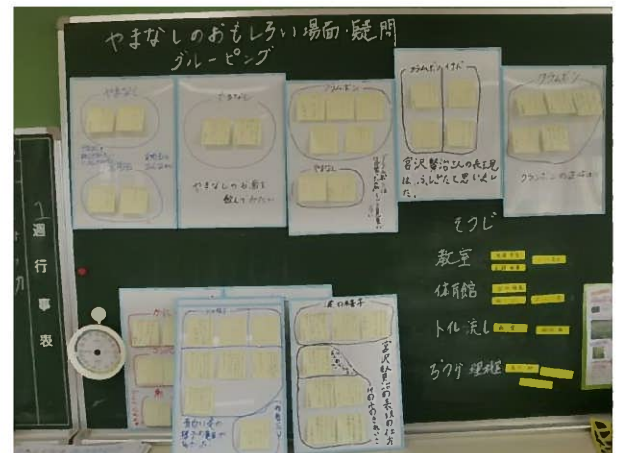
○視覚化の工夫 黒板上で操作もできる



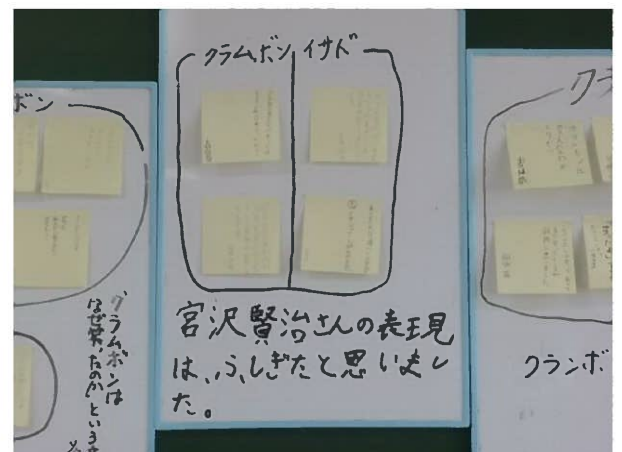
○本時の流れの掲示 課題と考え



○ホワイトボードと付箋を使って考えをまとめ交流に使う。(KJ法)



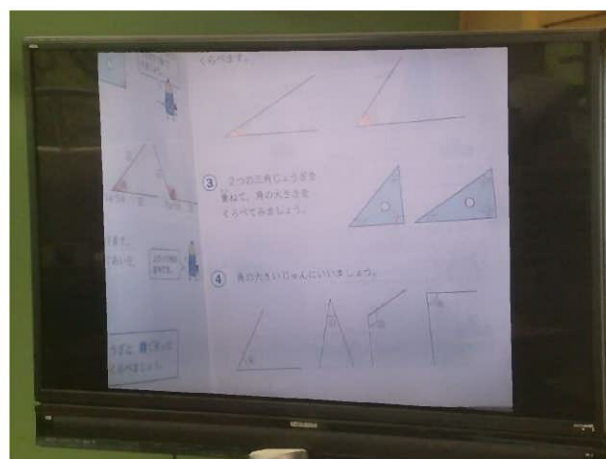
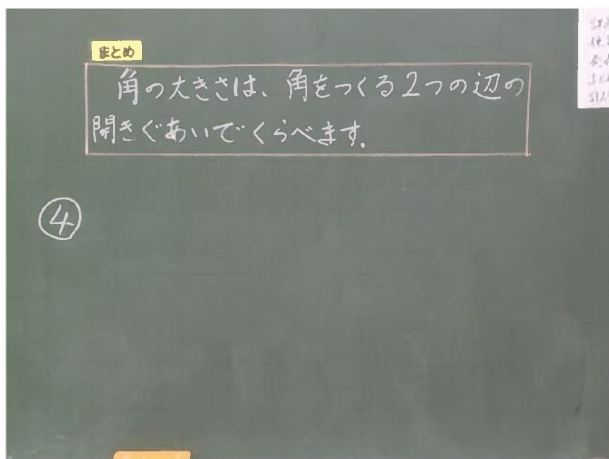
○並行読書 図書の紹介



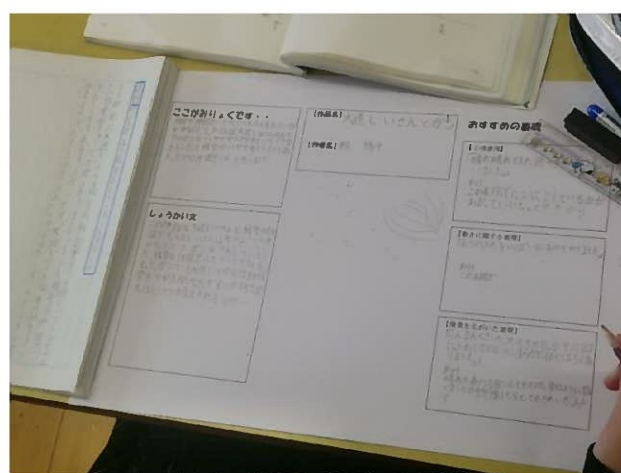
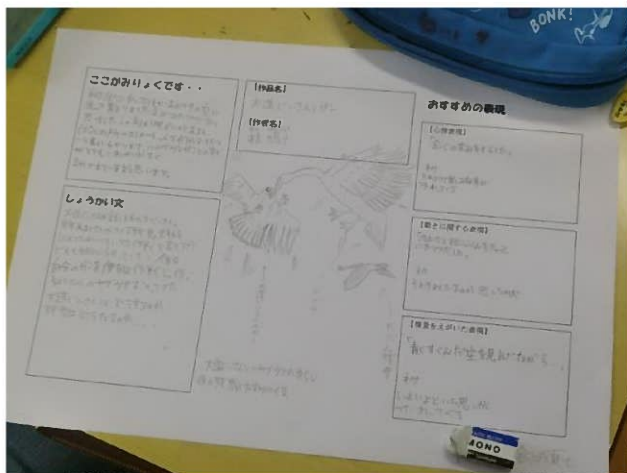
実践交流カード～「これちょっとやってみよう」～ NO.3 和間小H2810/26

<効果的>

○「まとめ」のあとに、振り返りや習熟、練習問題を行う。画面で一斉にやって復習したあと各自でやる。 操作の必要な学習（角の学習）は、画像を使うと効果的。



○ワークシートで物語の紹介カードを作成する。物語文の学習での言語活動
教科書で学習したことをノートにまとめてある。それをもとに、紹介カードに書いていく。



<効果的>

～見通しを持って、学習計画を立てれば、より効果的で、能率的である。～

- 国語の学習から、図工の学習へ 関連づけた、合科の工夫
国語「鳥獣戯画を読む」 → 図工「水墨で絵を描く」
国語科での学習を元に、実際に水墨で描く。



- 授業中の掲示物がそのまま、既習事項の教室掲示になる。

